

令和元年度 学校評価アンケート考察

丹波篠山市立篠山中学校

本年度の学校評価アンケートは、マークシート方式で実施した。しかし一部濃度が薄いと判別され、無回答としたものがあった。次回よりマジックペンで濃く塗るように依頼したい。

なお、回答は、4：あてはまる、3：少しあてはまる、2：あまりあてはまらない、1：あてはまらないとしており、数量的には等間隔と言えないが、増減の目安として平均値を、別添の集計表に記載し、本文中は平成30年度後期から令和元年度前期の増減を示している)

I. 自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育

- あなたは、学校の集団生活のルールやマナーを守っている（生徒 0.1）
- お子様は、登下校中など、交通安全に気をつけている（保護者 ±0）
- 学校は、朝の校門指導、下校時の校門指導、木曜日の下校指導の交通指導を組織的に行い、交通事故の未然防止に努めている（教職員 0.2）

（後期に向けての改善）

→安全指導について大きな変化はないが、ヘルメット着用や自転車の並進について保護者の方から意見をいただいております、交通安全指導の啓発や指導を充実する。危険箇所の把握や予告なし避難訓練、自転車保険への加入等を通して安全に対する意識の高揚を図る。

II. 誇りを感じる学校・学級集団

- あなたは、楽しく学校生活を送れている（生徒 ±0）
- お子様は、楽しく学校に行っている（保護者 ▲0.1）
- あなたは、生徒同士の活動を取り入れた授業をしている（教職員 ▲0.2）

（後期に向けての改善）

→学級活動・生徒会活動・学校行事をはじめ、部活動においても生徒の対話や協力を意図した活動を行う。話し合い、合意形成、意思決定して改善することを通し、今後も課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。

III. 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育

- 学校は、生徒の自己理解、将来の職業、生き方等について、適切な進路指導を行っている（保護者 ▲0.1）
- お子様は、ふるさと篠山の良さ（自然、文化、歴史）を知っている（保護者 ▲0.2）
- あなたは、ふるさと篠山の良さを知っている（生徒 ±0）
- あなたは、篠山の伝統文化を理解し、生徒に伝えようと努力をしている（教職員 ▲0.2）

（後期に向けての改善）

→1・2年生の段階での進路指導では、キャリアノートの活用や地域貢献活動の参加を促す。キャリアノートを活用し、キャリア形成に資する個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。

IV. 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善

- 授業が楽しく分かりやすい（生徒 0.1）、学校の授業の中で疑問や分からないことがあれば先生に尋ねて解決している（生徒 0.1）
 - 自主学習ノートを真面目に取り組んでいる（生徒 ▲0.2）
- ※予習復習に取り組む生徒 1年 68% 2年 63% 3年 64%
- 学校は、授業の疑問や分からないことをていねいに教えてくれる（保護者 ▲0.1）
 - 『篠中授業スタンダード』に基づいた授業をしている（教職員 ±0）

（後期に向けての改善）

→生徒は、習得した知識・技能が他教科等や生活で活用できるよう、また宿題ではなく見

通しのある予習や振り返りのある復習を含む家庭学習に取り組めるよう、組織的に取り組む。授業スタンダード(予習・目標理解・個人思考・集団思考・振り返り)に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。思考を深める対話について、一層の授業改善を図る。

V. 存在感や成就感を大切にした生徒指導

VI. 豊かな人間性・社会性を育む道德教育、人権教育

- あなたは、『篠山中学校情報機器取り扱い三箇条』を守っている(生徒0.5)
 - 学校は、子どもや保護者の悩み・思いをしっかりと聞いている(保護者▲0.1)
 - 学校は、不登校、問題行動、その他の生徒指導について、指導の方向の明確化と共有を図り、各自の役割を遂行している(教職員▲0.1)
 - いじめは絶対に許されないと考えている(生徒▲0.1)
 - 学校はいじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決に努めている
(保護者0.1)
 - いじめアンケート、教育相談、QUテストを活用して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をしている(教職員▲0.1)
 - 道德の時間に、自分の考えを言葉で表現し、人と交流している(生徒▲0.1)
(後期に向けての改善)
- 生徒指導方針、いじめ防止基本方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに関係機関と連携しケース会議等による組織的・計画的な個別支援を行う。また、「報・連・相」の意識を高めるとともに生徒指導委員会と学年会の連携を円滑にする。
- 他者や自己との対話による「特別の教科道德」を要とし、教育活動全体で、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養う。(評価研究を含めた授業研究の充実、ローテーション授業の実施 保護者・地域への公開)

VII. 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール

- 学校は、保護者や地域の意見を真摯に受け止め、連携を積極的に進めている
(保護者▲0.1)
 - ご家庭では、社会生活のルールやマナーが守れるようにしつけをしている(保護者±0)
 - 学校は、学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や環境美化活動・花いっぱい活動を積極的に行っている(教職員▲0.1)
(後期に向けての改善)
- オープンスクール・参観日・懇談等により一層の意見聴取等に努めていく。

VIII. まごころで子どもとともに学ぶ教職員組織

- 定時退庁の木曜日、18:30までに退庁している(教職員▲0.7)
 - 職員申し合わせ事項を意識して職務を行っている(教職員▲0.2)
(後期に向けての改善)
- 校務の効率的・効果的な実施、会議の効率化(会議資料の事前配布)、ノー部活デー(木曜日と土日いずれか)や定時退勤日の徹底、記録簿によるタイムマネジメント、計画的な年休取得など勤務時間の適正化を進める。校務については、生徒の教育の効果を考慮しつつ、学校改革推進委員会を中心に「選択と集中」を進める。
- 教職員のチームワークづくりは自分の考えや思いを言葉で伝えることができる雰囲気が必要である。日頃の職員室、委員会、学年会議等で発言できる組織づくりを継続する。